

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第25集 (長野県道 1 号線~508 号線)

残りの県道は? 92 <1~100>(3)64・96・97<101~200>(16)109・121・122・135・136・
137・141・142・143・153・156・157・158・166・169・186<201~300>(15)202・208・
210・223・224・233・234・236・237・243・247・250・251・252・273<301~400>
(19)324・325・330・335・343・347・351・352・360・366・368・370・371・372・375・
377・378・384・392<401~508>(39)401・402・406・407・411・414・417・418・419・
421・426・430・431・435・437・438・441・443・452・454・455・456・465・474・
476・480・481・483・489・491・492・493・494・498・499・501・503・504・507

NO.169 信濃の国は10州に境連ぬる国にして(群馬県編)

NO.170 秋山郷周辺の県道を走る

(長野県道 407 号走破) (長野県道 507 号走破)

NO.171 水殿ダム(国道 158 号)から北殿駅(飯田線)

(長野県道 426 号走破) (長野県道 476 号号走破) (長野県道 489 号号走破) (長野県道 493 号号走破)

NO.172 小諸懐古園の対岸を走り浅間山裾野を御代田方面に

(長野県道 135 号走破) (長野県道 136・137 号走破) (長野県道 141 号走破) (長野県道 142 号走破)

NO.173 奉納温泉(小谷村)は、昔の記憶と違っていた

(長野県道 330 号走破)

NO.174 イオンモール須坂に初めて行きました

(長野県道 347 号走破)

NO.175 東海環状線 2025 年に開通した所を走り・桑名の蛤を食べる

埼玉・富山・山梨・愛知・岐阜・静岡につづき7作目(残りは新潟県)になる群馬県を書きます。長野県から群馬県に行く道路の中で、軽井沢町の碓氷峠から南の上野村にかけて、県境を越えて急な下りになる道路を前半として書いてみます。県境には山脈があり、長野県側からは千曲川沿いに平があり、そこから緩やかに登って山脈に向かう、山脈を越えると急坂になり群馬県の平の所までは、山谷がつづく。標高差で見ると、国道18号線の小諸が700m・軽井沢が940m・碓氷峠(県境)が956mと緩やか、峠を降りた横川が370mであった。国道299号線の佐久穂町が746m・十石峠(県境)が1351mと緩やか、峠を降りた上野村の群馬県道45号線との交点が635mであった。

①【長野県道/群馬県道124号線(上野小海線)】第18集の「NO.125」に記載。国道141号線の小海町から北相木村を通り、上野村の国道299号線に至る路線。

②【国道299号線(茅野市～入間市)/国道462号線(佐久市～伊勢崎市)】国道299号線は、茅野市から麦草峠(ハヶ岳)を越え、佐久穂町を通り、十石峠(県境)を越え上野村を通り埼玉県までの路線である。一部メルヘン街道、武州街道とも呼ばれている。国道462号線は、平成5年(1993年)に新設された国道で、佐久市から国道141号線と重複、佐久穂町から上野村まで国道299号線と重複している。

③【長野県道/群馬県道108号線(下仁田佐久穂線)】第3集の「NO.16」に記載。佐久穂町の国道299号線から余地ダムあたりまで通行できる。下仁田町の国道254号線から南牧村を通り県境までは通行できないので、迂回して林道大上線にて国道299号線に出る。

④【長野県道/群馬県道93号線(下仁田白田線)】第1集の「NO.2」に記載。佐久市白田の国道141号線から田口峠を越え、急なヘアピンカーブの多い坂を下り、群馬県南牧村を通り下仁田町で国道254号線と交わる路線。

⑤【国道254号線(松本市～東京都文京区)】松本市国道19号線の平瀬口交差点から三才山トンネルを通り国道142号線(中山道)と交わり、重複しており佐久市まで、佐久市から県境の内山峠を越え群馬県に入り、上信越道・関越道と平行して川越まで、川越から終点の東京文京区の本郷三丁目交差点で国道17号と交わる。

⑥【長野県道/群馬県道44号線(下仁田浅科線)】第15集の「NO.102」に記載。佐久市浅科の国道254号線から佐久市岩村田を通り、神津牧場の中を通り、荒船風穴の横を通り、下仁田町の国道254号線と交わる。

⑦【長野県道/群馬県道43号線(下仁田軽井沢線)】第11集の「NO.72」に記載。下仁田町の国道254号線



から、紅葉ライン（姫街道）と呼ばれる中山道の裏街道の一つ。上信越道をくぐり美味峠で長野県軽井沢町に入る。プリンスのゴルフ場とプリンス通りを抜け北陸新幹線を抜け、国道 18 号線と交わる。

⑧【上信越自動車道（上越JCT～藤岡JCT）E18】佐久ICから、現在補強工事をしている関伽流（あかる）山トンネルを抜け、八風山トンネルのトンネル内に県境があり、群馬県に入ってもトンネルはいくつか通過する。群馬県に入ってから最初のICは、碓氷軽井沢ICである。

⑨【長野県道/群馬県道 92 号線（松井田軽井沢線）】第 12 集の「NO.78」に記載。松井田町横川の国道 18 号線が起点で、すぐ碓氷峠鉄道文化むらがあり、旧中山道と交わり、旧中山道から国道 18 号線に入り、200m 弱で、国道 18 号から国道 18 号バイパス（碓氷バイパス）に連絡する形になり、暫くバイパスと重複し走り、松井田入山からはバイパスを離れ、上信越道の下をはしり、碓氷軽井沢ICの横に出て、ここからインターから軽井沢に向かう登りの道路となり、県境を越えて下り始め 1.2km 程で、県道 43 号線と交わる。

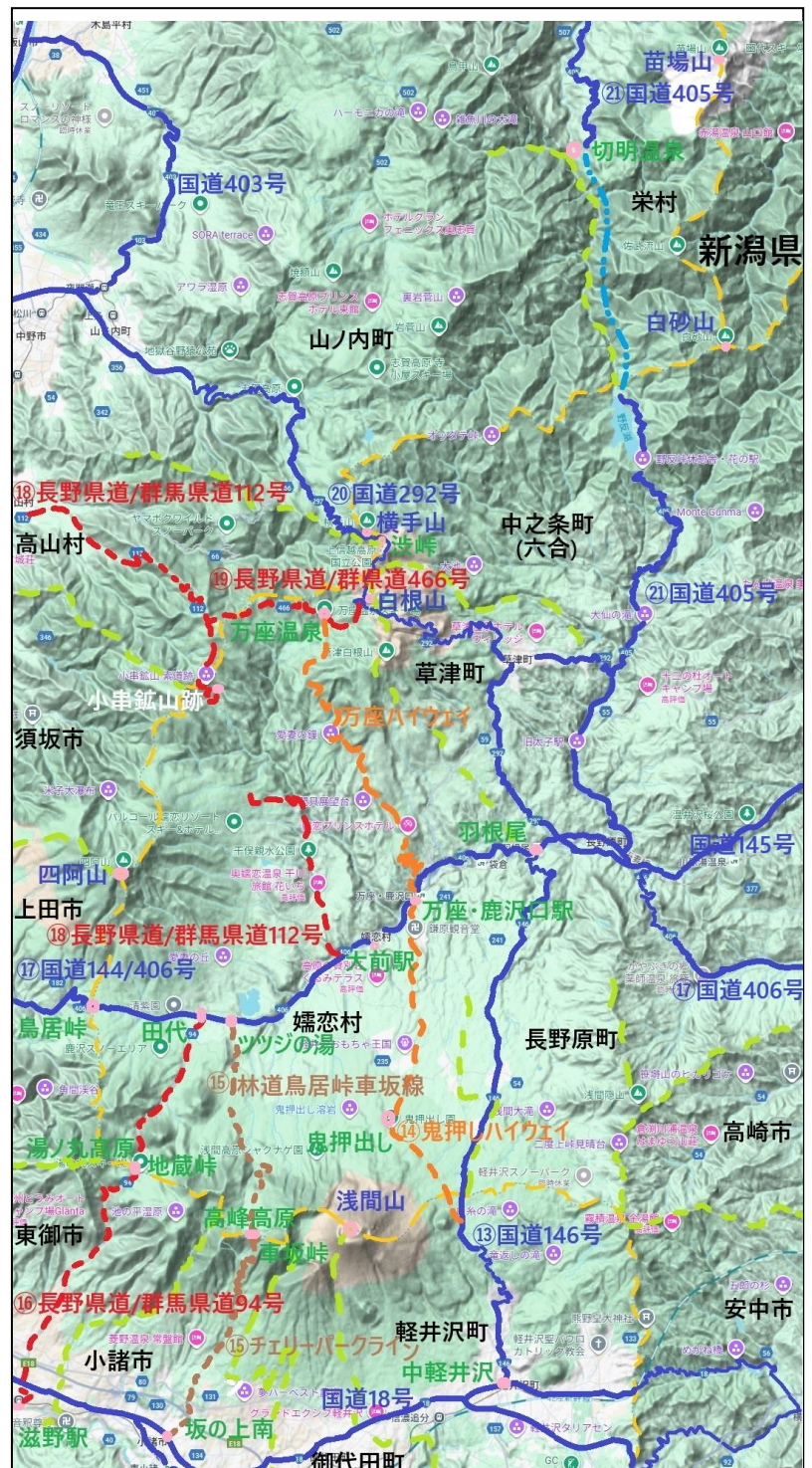
⑩⑪【国道 18 号線/国道 18 号線碓氷バイパス（高崎市～上越市）】上越市の国道 18 号線交点から高崎市の国道 17 号線交点までの路線で、小諸市から御代田町に、軽井沢町に入り、碓氷バイパスが出来（1971 年 11 月）現在 2 路線があり、群馬県の松井田町横川で 1 路線になる。県境で入山峠（バイパス）と碓氷峠を越える。

⑫【長野県道 133 号（旧軽井沢軽井沢停車場線）～旧中山道】第 11 集の「NO.73」に記載。軽井沢駅より旧軽井沢銀座を通り、旧中山道に沿っての峠に向かう道で、旧碓氷峠の県境までの路線であるが、県境の向こうは、旧中山道の歩道になる。

後半は、浅間山を越える路線に始まり、鳥居峠、志賀高原、新潟県を含めた 3 県の境である白砂山までの上信越高原国立公園の山々を越える。日本有数の火山地帯であり、浅間山・白根山は噴火もしている。越えた先の群馬県は、前半の群馬県の急な道と比べ火山の裾野広い台地になっている。

⑬【国道 146 号（長野原町羽根尾～軽井沢町中軽井沢）】国道 18 号線の中軽井沢交差点（標高 940m）から浅間山東の標高 1400m まで登り、鬼押ハイウェイとの分岐点から 2km 程で群馬県に入り、嬬恋村と長野原町の境を走り、国道 144 号/406 号線の交点である羽根尾交差点（標高 660m）までの路線。

⑭【鬼押ハイウェイ】第 22 集の「NO.149」に記載。国道 146 号線と分岐し、約 2km で群馬県に入る有料道路である。その後万座・鹿沢口駅を経由し、有料



の万座ハイウェイ（鬼押ハイウェイと合わせ「浅間白根火山ルート」と言う）で長野県道/群馬県道 466 号線と交わる。

⑮【チェリーパークラインと嬬恋林道鳥居峠車坂線】2020.9.29 小諸市でうなぎを食べた後国道 18 号線の坂の上南交差点から市道を進み、家がなくなってチェリーパークラインに入り、山道を登ると標高 1973m の車坂峠に着いた。少し戻って、高峰高原ホテルに車を止



めて、景色を眺め、売店で買い物をしてから嬬恋村にむかったが通行止めのため、湯ノ丸までのダートの林道（湯ノ丸高峰林道）にいった。その後県道 94 号線で東御市から丸子を通り三才山トンネルを通り帰宅した。その後、林道を嬬恋村のツツジの湯から途中まで走ったが、工事中であつたりして通っていない。ネットをみたら、鳥居峠車坂線 2025.10.1 に開通とある。車坂峠から群馬県に入り、国道 144 号/406 号線の横にあるツツジの湯までの林道鳥居峠車坂線は、いつかは走って見たいと思います。

⑯【長野県道/群馬県道 94 号線（東御嬬恋線）】第 4 集の「NO.27」に掲載。東御市のしなの鉄道滋野駅から湯ノ丸高原（地蔵峠）から群馬県嬬恋村に入り、国道 406 号/144 号線の交点田代交差点までの路線。

⑰【国道 406 号（大町市大黒交差点～高崎市君が代橋東交差点）・国道 144 号線（上田市中央東交差点～長野原町羽根尾交差点）】国道 406 号線は、大町市から白馬村に向かい（国道 148 号と重複）鬼無里地区を通り長野市、須坂市から菅平を越え上田市に、国道 18 号線の上田市中央東交差点から始まる国道 144 号線と菅平口交差点（標高 1000m）で交わり、以後重複し鳥居峠（1362m）を越えて群馬県に入ると嬬恋村のなだらかな下りの道路になる。国道 144 号線の重複は、長野原町羽根尾交差点までつづく。終点は、高崎市街地の国道 18 号線と国道 17 号線との交点の君が代橋交差点である。

⑱【長野県道/群馬県道 112 号線（大前須坂線）】第 17 集の「NO.116」に記載。国道 403 号線の須坂市春木町交差点から扇状地を高山村に進み、谷から尾根に移り、県境まで進むと通行止めになっている。群馬県側は、暫く路線がなく、国道 406 号線の大前駅近くの三差路から登って来る道に出る。



⑲【長野県道/群馬県道 466 号線（牧干俣線）】第 17 集の

「NO.115」に記載。須坂市よりきた県道 112 号線が県境付近で分岐し、片方が県道 466 号線になり、約 1km で長野県境を越える。群馬県では万座温泉内を走り、国道 292 号線の白根山近くの万座三叉路で終点となる尾根近くを走る路線。

⑳【国道 292 号線（新潟県妙高市寺町交差点～群馬県長野原町）】国道 18 号線の新潟県妙高市寺町交差点（旧新井市）から富倉峠を越え飯山市（富倉街道）に入り、飯山市から南下し中野市に、志賀高原に向かうオリンピック道路を経て長野県境の渋峠から群馬県に入ると 3km 程尾根近くの県境を走る。白根山から下り、草津温泉に入る、そこから南下し長野原町までのルートとそのまま東に進み旧六合村を通り長野原町の国道 406 号線までの 2 路線となる。

㉑【国道 405 号線（新潟県上越市鴨嶋交差点～群馬県中之条町六合）】群馬県側は、第 24 集の「NO.165 号」記載。国道 292 号線（長野原町から草津町までは 2 路線となっている）の六合ルートを長野原町から進み、旧六合村入山地区に入つてすぐの三差路からの野反湖まで、11km 程路線がなく、600m 先が長野県境となっている。長野県側は、秋山郷切明温泉から、野反湖から流れる中津川に沿って山の中腹を進み、栄小学校秋山分校に下る道を過ぎ、小赤沢の苗場登山口から 3km 程で新潟県に入り、いくつもの尾根を越える山道を通り旧高田市の国道 18 号線との交点である鴨嶋交差点に到達する。

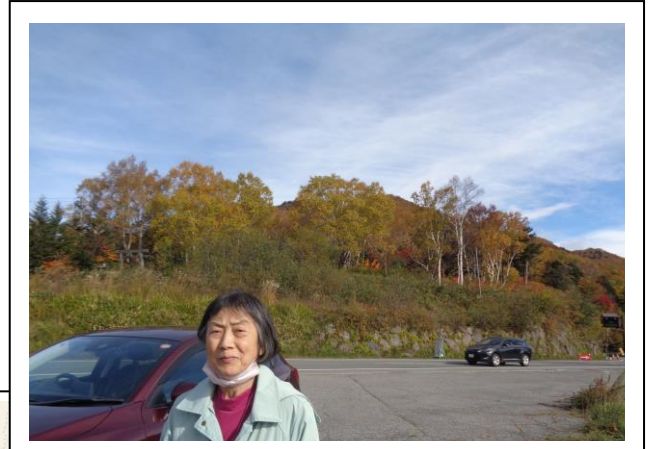
《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.10.21

秋山郷周辺の県道を走る

澤田 繁 著

(長野県道 407 号走破)(長野県道 507 号走破)

2025.10.21、家を出たのが 11 時半、塩尻北インターから中野インターまで高速に乗り、インター出口から直進しオリンピック道路(国道 292 号線)を使い志賀高原に行きました。紅葉が見頃との情報あり、ここから秋山郷に向かいました。志賀高原の標高は、1700m 程であり、紅葉は見頃でした。ここから県道 471 号線を通り、雑魚川に沿って下りの紅葉の道(少し早かった)を走り、途中から県道 502 号線に変わり、木島平村に入

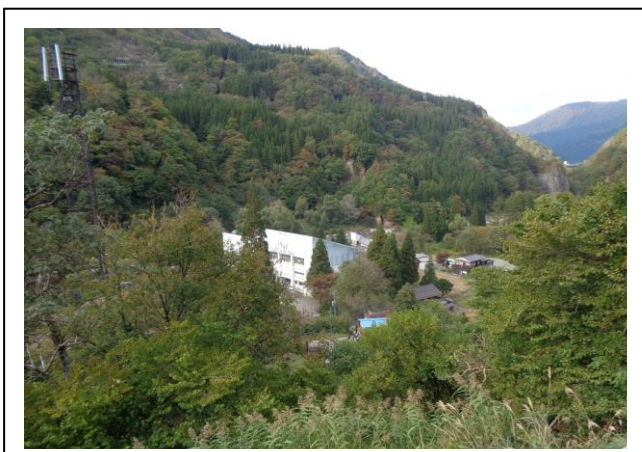


りすぐに、秋山郷(林道秋山線)方面と野沢温泉方面(県道 502 号線)と分岐する所(標高 1200m)に来た。雑魚川は、林道秋山線に沿って下っており、野反湖から流れる中津川と切明温泉近くで合流する。林道秋山線は、センターラインがない 1.5 車線が多い曲がりくねった道で、結構時間がかかったが、標高 860m の切明温泉まで一気に降った。

切明温泉には、以前に、栄村の県道を使い北から訪れた。2022.10.25 に飯山から国道 117 号線で栄村に行き、役場入口交差点に到達した。役場入口から森宮野原駅(約 200m)までの県道 507 号線は、6 月に走ってあったので、そのまま国道 117 号線(県道 507 号線と重複)を進み、信濃川を渡る手前にある県境を越え新潟県に入る。ここから新潟県道 239 号になり、信濃川を渡り、逆巻交差点を右折し、50m 程行った三差路を右折し、県境である志久見川を渡ると長野県道 507 号線に名称が戻る。川沿いの山間地、耕作地、家もところどころあり、志久見川第一発電所まで続く、ここから山道になり、峠を越え、谷合の道を走り、谷から峠を越える道になり、「五宝木トンネル」を抜けると

秋山郷に入る。山腹の道を走り、屋敷温泉で中津川を渡り国道 405 号線に出た（長野県道 507 号線/新潟県道 239 号線＝秋山郷森宮野原停車場線完走）。国道 405 号線を、通行止めゲートまで行き、そこから、中津川沿いにある切明温泉にまで降りた。

2025.10.21、切明温泉から国道 405 号線に出る道が通行止めでしたので、村道を通り、国道 405 号線に出た。秋山郷の中心地は、小学校のある所と思い、ナビで行きました。「栄小学校秋山分校」は、40 年前くらい建てられた新校舎（写真右）であり、旧校舎は、川から離れた対岸にあった気がする。中心地のようだが？少し調べると、源頼朝に敗れた、平家の落人（上野国草津の平勝秀）がもと、現在長野県に 5 集落（小赤沢・屋敷・上ノ原・和山・切明）、新潟県に 8 集落（見玉・穴藤・逆巻・清水川原・結東・見倉・前倉・大赤沢）ある総称であり、点在しているようだ。国道 405 号線に戻り、小赤沢にある「福原商店」で焼だんごを買って食べようとしたのですが休みでした。県境を越え、新潟県の大赤沢地区に入り、少し行くと。405 号線全面通行止め迂回路案内があり、しかたなく迂回路である「東秋山林道」を走り、清水川原で国道 405 号線に合流しました。見玉不動尊の案内のある所を過ぎたところから耕作地が広がり出した。津南町の市街地に入り、大割野交差点で国道 117 号線に出た。



2022.6.14、豊田飯山インターで降り、飯山から栄村方面を走り、中野インターから帰宅したルートの中に栄村の村内を走る県道 407 号線を走った。森宮野原駅に到着し、日本最高積雪地点の柱がある所で写真を撮りました。昭和 20 年 2 月 12 日・7m85cm の表示がありましたが、あくまで積雪であり、実際に降った（降雪）雪は？と思うとぞっとする。私が住み標高 1200m の松本市の西にある清水高原においては、すみついた（四十数年前）頃には、積雪は、かならず 1m を越えていたのが、近年温暖化で、半分以下になっている。松本市街（標高 600m）は、春のドカ雪を除くと降雪は少ない所であり、積雪は少ないが、積雪が 1m を越えていた頃の私の家は、一定の寒さが冬は持続しており、降った雪は



解けた事がなかったが、近年は、冬に雨になったりし解ける事が多くなった。

森宮野原駅を出て県道 507 号線を栄村役場入口交差点まで、その後国道 117 号線と重複して走り、逆巻交差点を右折し新潟県道 238 号線（加用逆巻線）に入る。志久見川の右岸（北側）を走り、志久見川第二発電所がある所で県境である志久見川を渡り、長野県道 407 号線（長瀬横倉停車場線）に変わる。県境から 500m 程行くと、県道 507 号線と交わり 200m 程重複して、その後川沿いを離れ山道に入る。標高 100m 程登ると、標高 550m 前後の起伏のある台地になり、点在する耕作地と集落を走り、野田沢の集落を越えてからは、下りが急になり標高 200m 程下ると千曲川に出た。百合居橋（県道 408 号線と重複）を渡り右折し、栄小学校横を通り、踏切を渡り右折して横倉駅に着いた（県道 407 号線走破）。

2025.10.21、国道 117 号線の大前野交差点から、飯山方面に向かい帰宅しようと思いましたが、少し無理して国道 405 号線の終点まで行って見る事にしました。飯山方面とは反対方向に国道 117 号線を 200m 行くと国道 405 号線は、分岐し津南駅に向かう。駅前を右折し 100m 程行って踏切を渡ると、道は狭くなり山道に入った。田んぼ道のような狭い緩やかな登りの山道がつづき、標高で 300m 程上がった所からは、山腹を走



る道になった。以後登ったり降ったり、山腹を走っての繰り返しになり、いつ終点に着くか不安になりながら、引き返すにも遠くなってしまいそのまま進んだ。すれ違う車がないなか、名所の看板があり、駐車場もある所が現れた。看板には、『「十留原の棚田」十日町市内各所の山間地の斜面には、多くの棚田が広がっています。豪雪地である十日町市の豊富な雪解け水は、棚田にとって貴重な水資源で、上部の池に溜められて農業用水となります。棚田は、生活の糧となる米の生産の場であるだけでなく、洪水や地滑り、土壌の浸食を防ぎ、多種多様な生き物を守り育てます。また、この地の人々豪雪地の里山で棚田を維持し、暮らしていく中で、さまざまな知恵や技、豊穰を願う年中行事など豊かな文化が育まれ伝承されてきました。里山の人々はたゆまぬ努力によって棚田を守り、守られた棚田は市域の環境保全などの多面的な機能を発揮して、里山の暮らしを残っています。人里から離れているため、かつて農繁期には、ここに寝泊まりしながら農作業が行われました。』と書いてありました。



だいごんじ
大巖寺高原森林公園方面に行く案内板を通り、大島村（現在は上越市大島区）方面に進む、次の週のテレビ番組のタクシー・・・でラーメンがすごくおいしいところで山の中の食堂「希望館」（大巖寺高原）が出て来た。行っても昼のみの営業のようであったので紹介のみとします。旧浦田村を通り、大島区に入った。ここから上越市になり、かつての村が〇〇区表示になっている。谷間にある大島区の市街地から、又、山を一つ越え、安塚区に入った。長野県境より小黒川に沿って下って来た国道 403 号線（松本～新潟）に突き当たり、国道 403 号線と重複し、しばらく北上し和田地区で国道 403 号線と分岐し西に向かった。

川（^ほうの^き木川）沿いをしばらく登り、川と離れ山を越えると牧区に入った。山間地を走り、県境から流れる飯田川の谷に到着した。ここから川沿いを数 km 行った所で、長かった山間が終わり平野に出た。平野からは旧高田市に入ったもようで、そのまま平野を進むと、国道 18 号線の鴨鳥交差点（国道 405 号線終点）に到着した。午後 6 時までには、到着を願っていたが、なんとか 6 時に到着する事ができ、ほっとしました。そのまま交差点を直進し、高田城を通り、高田駅方面に夕食を食べに行きましたが、適当なところが見つからず、帰る方面に行き、国道 292 号線（群馬県長野原町～新潟県妙高市新井）に入り、暫く走り、新井道の駅で夕食を取ろうと思い向かった。少し探して、氷見きときと寿司あらい道の駅店があったので寿司を食べて、スマート IC から高速に乗り帰宅した。自宅到着は 9 時半であった。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.11.12

水殿ダム(国道158号)から北殿駅(飯田線)

澤田 繁 著

(長野県道426号走破)(長野県道476号走破)(長野県道489号線走破)(長野県道493号線走破)

2025.11.12、11時20分に自宅を出て、野麦街道を通り、松本電鉄上高地線の新島々駅手前で国道158号線に出た。国道158号線を進むと、長いこと不通区間のある県道278号線(第12集NO.80)の対岸からの橋の建設状態を見、完成が近い写真

をとり、梓川の谷に入った。この谷の国道は、谷の山腹を通り、曲がりの多い道であり、トンネルの中は幅が狭い。現



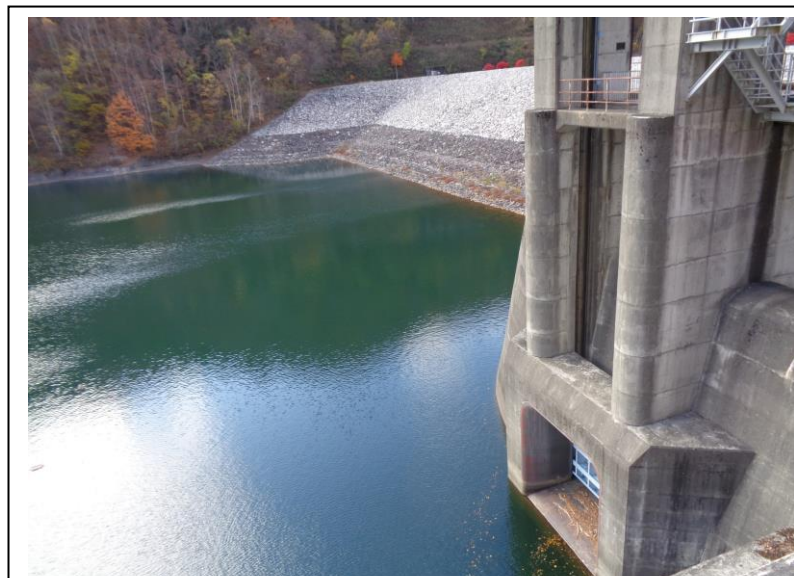
在2か所で工事が進められており進捗状況をみながら進んだ。稲核ダム下は、狸平トンネルは完成し、ダム下の橋を現在の橋の横に作る工事が始まっていた(完成はまだだ)。水殿ダム上から奈川渡ダム下は、かなり前から初めている工事で、最後のダムからのトンネル(トンネルの中に三差路がある)の工事が進んでいた(完成はまだだ)。

奈川渡ダムからは、県道26号線(第11集NO.71)に入り、旧奈川に向かい、村の中心地を通り過ぎ、前に一度寄



って食べた仙洛で「とうじそば」を食べ、境峠を越え木祖村に入った。木曽の祖・木曽川の源流地域でもある。県道26号線を外れ、他の谷にある「奥木曽湖」に寄って、藪原宿周辺を散策し国道19号線に入った。

鳥居トンネルを抜けすぐ、奈良井栃窪交差点を右折し塩尻市道に入り奈良井川に沿って登って行くと、県道 493 号線（姥神奈良井線）と合流した。ここまでの県道 493 号線は、現在通行止めが続いているが、2021.11.30 に、橋を渡り対岸の川沿いを下り、鳥居トンネルの上を通り、橋を渡り国道 19 号線に出た。今日は、更に川を上り奈良井ダム（ロックフィルダム）に寄った。ダム湖と水を流すコンクリート構造物を見て、ダムの働きを想像した。ダム湖に沿って進み、姥神交差点で国道 361 号線と交わった（県道 493 号線走破）。



国道 361 号線は、2006 年権兵衛トンネルが開通とともに、伊那と木曽を結ぶ路線となった。奈良井川に沿って権兵衛トンネル手前まで権平街道が平行して走っているのが見えた。この権平街道は、この後、権兵衛峠（標高 1523m）を越え伊那に向かうが、道幅が狭く、冬期間通行できず、落石が多く実用的ではなかった。伊那と木曽は、中央アルプスで隔てられており、なかなか低い所がなく、山も険しいが、車で走ると、県道 493 号線の交点の姥神から県道 203 号線の交点の与地交差点まで 9.7km を 10 分程で走った。



与地交差点から県道 203 号線（第 7 集 NO.46）に入り、西箕輪（伊那市）地区、西箕輪小中学校前交差点（五差路）を通り、途中「みはらしファーム」に寄り、大泉川を渡った所（西箕輪の端・吹上）を右折し、県道 426 号線（県道吹上北殿線）に入った。ここから天竜川までのなだらかな下りの道をほぼ真



っすぐに進む、家が道沿いには多いが、すぐ横は耕作地が広がっていた。県道 426 号線始点より 2km 程下ると南箕輪村に入り、さらに下り、国道 153 号線の北殿大泉入口交差点に到達して県道 426 号線を走破した。

右折して国道 153 号線を 200m 程行った三差路を右折し、県道 489 号線（伊那北殿線）に入った。北殿駅までは、河岸段丘を下る坂道であり、下りた所に飯田線の踏切があり、踏切は 1 車線の狭い道であったため、北殿駅（写真前ページ）に寄り、北側の踏切を通り、県道 489 号線に戻って来た。ここから県道 489 号線は、飯田線に沿って天竜川との間の道を伊那市御園の国道 153 号線まで行っている。田畑駅（写真下）までは、比較的広い平があり、田んぼや工場が多数ある地域であった。田畑駅を過ぎると天竜川が迫っていて、狭い平の河岸段丘下には、新興住宅が建っていた。国道 153 号線のガー



ド下をくぐり、伊那市御園地区に入り、一つ目の交差点を左折して国道 153 号線に出た（県道 489 号線走破）。

国道 153 号線を南下し、伊那市山寺地区に入り、山寺交差点を右折し、伊那北駅（写真下）の横の踏切を渡り、伊那市道を伊那インター方面に進んだ。踏切を過ぎるとすぐに河岸段丘を登る道になり、右に伊那北

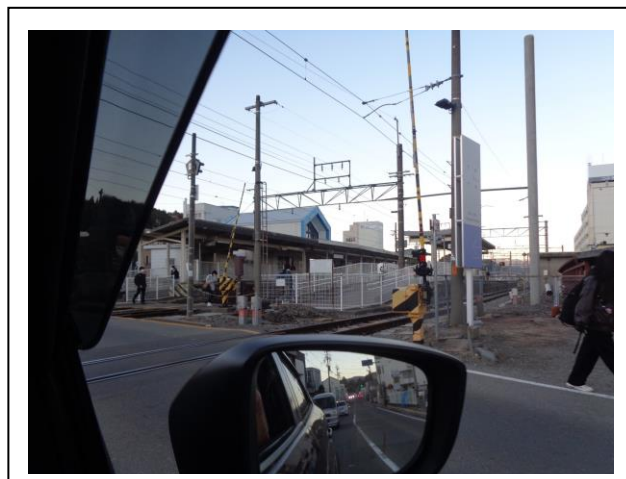
高校があり（見えなかった）、ゆるやかな登り道を進むと、上伊那農業高校があり、信州大学農学部も左手にあった。市道から信大前交差点で県道 476 号（伊那インター西箕輪線）に出た。

信大前交差点を右折し、県道 476 号線に入り、伊那インターまで走った。この県道度々走っているが、2022.4.12、みはらしファームから西箕輪小中学校前交差点の五差路に出て、そこから 476 号線に入り伊那インターまで走っており（県道 476 号線走破）、3.5km 程の県道である。

伊那インターから伊北インターまでは、高速と決めていたが、岡谷 JCT の工事渋滞状況表示を見ながら走行し、伊北インターから塩尻インターまで 40 分の表示を見て、高速を選択したが、抜けるのに 20 分程かかってしまいましたが、5 時半には、アイシティに着き、つるやで買い物をして帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.11.18

小諸懐古園の対岸を走り浅間山裾野を御代田方面に

澤田 繁 著

(長野県道 135 号走破) (長野県道 136・137 号走破) (長野県道 141 号走破) (長野県道 142 号走破)

2025.11.18 自宅麓のアイシティーで買い物し、11 時半にアイシティーを出ました。時期的に「おしぼりうどん」を食べに、松本インターから麻績インターまで高速に乗り、坂上トンネル(県道 55 号線)を抜け、新山地区の傾斜地を降り、上山田小学校に出る。その後、県道 77 号線を通り、坂城大橋(県道 160 号線)を渡り国道 18 号線に出た。アイシティーからは 1 時間にもかかわらず来たが、ここから目的地の「さかき地場産直売所あいさい」まで、探すまで時間がかかった(国道沿いにはないと思い込んでいた)がたどりついた。食堂は 14 時までの営業であり、この時間にこの場所にいる機会が少ない場所でもある。食事の後、ねずみ大根等を買ひ、坂城インターで高速に乗りました。



小諸インターで降り、**県道 79 号線**(第 18 集 NO.122)で浅間山山麓を下り、**国道 141 号線**に出て、本町交差点から**県道 142 号線**(八幡小諸線線)に入った。しなの鉄道のガード下を通り左折し「小諸城址懐古園」横を通り、小諸駅の後ろの交差点を右折、ここから千曲川に向かって降りていき、戻り橋を渡り、対岸の山浦地区に入りました。集落から登って千曲川上流に向かうと段丘の上に出て少し行くと、久保集落があり、更に行くと千曲ビューライン(第 4 集 NO.26)と交わった。県道 142 号線のこの先は、2022.7.19、逆方向から、国道 142 号線八幡交差点から町浦橋交差点で県道 44 号(下仁田浅科線・第 15 集 NO.102)と交わり右折し、しばらく重複し走り三差路を左折し千曲川段丘に向かい、八幡・蓬田・桑原と旧南相木村(浅科村



から現在佐久市)の田んぼ地帯をはしり、その後、宮沢・大杭(旧川辺村山浦から現在小諸市)と河岸段丘の地区を通り、千曲ビューラインと交わった。その後県道 142 号線を小諸懐古園まで行き、小諸インターから帰宅した、これで県道 142 号線走破となる。

2025.11.18 小諸ビューラインを軽井沢方面に進むと、小諸大橋があり、橋の上から北側に千曲川の断崖<参考までにグーグルの写真を掲載>が見え、南側には、丘陵地の耕作地が見えた。千曲川の東側(右岸)からは、旧三岡村(森山・市・耳取)となり段丘を登ると平になった。県道 79 号線(第 18 集・NO.122)と森山西交差点で交わり、直進すると**県道 141 号線**(耳取三岡停車場線・耳取北交差点まで千曲ビューラインと重複)がはじまった。耳取北交差点を左折し、200m 程(県道 139 号線と重複)の三差路を右折してこのまま三岡駅までほぼ直線の道路となる。少し走ると、この先通行止め迂回路の矢印があったので、しかたなく迂回したら小海線路脇に出てすぐ三岡駅であった。この県道、旧村を走る道のため、耕作地と家がある道路となっていた(工場も少しあった)。2022.10.4、三岡駅より県道 141 号線を終点の森山西交差点まで走っていたので、先に進む事にした(県道 141 号線走破)。



三岡駅の北の踏切を渡ると**県道 137 号線**(借宿小諸線)に出た。2021.10.19、軽井沢元祖力餅しげの家に行った帰りに、国道 18 号線の追分交差点から県道 137 号線に入り、1km 程行った所で、左折し信濃追分駅までを往復(県道 136 号線・走破)した。県道 137 号線に戻り、耕作地帯を下り、三岡駅の横を通り、小海線に沿って走り、しなの鉄道を高架で越えて国道 141 号線の四ツ谷交差点を直進して終点の加増東交差点で国道 18 号線とまじわった(県道 137 号線走破)。今日(2025.11.18)は、三岡駅横から 137 号線を軽井沢方面に進んだ。直線で 1.5km 程行くと国道 141 号線に出て右折し、国道 141 号線と 300m 程重複して走り、御影新田池の前の信号を左折し、県道 137 号線の続きを進んだ。御代田町の市街地までは、緩やかな傾斜地で稲作中心の田んぼと家がある道路であった。県道 9 号線(第 7 集 NO.44)と交わりすぐ右に行けば小田井宿がある中山道となる。直進して、御代田町の市街地を通り抜け草越地区に入ると、新幹線がすぐ右にはしり、たまたま軽井沢方面に新幹線列車が走って行った。草越地区は、耕作地が多く、やや傾斜が急になって行った。草越地区を過ぎると、山道に入り、林が多くなって軽井沢町追分に入った。しなの鉄道の高架を渡り数十m先を右折して**県道 136 号線**(信濃追分停車場線)に入り、**信濃追分駅前**まで行き、車を止めた。

2025.11.18、追分駅より、借宿バイパスを通り、国道 18 号線に出て、追分宿に行く前に、道に迷い 1000m 林道などを走り、なんとか追分宿を走る事ができ、勢いで中山道を下って行ったが、道は広くなっていて旧道の趣はなかった。御代田駅周辺を走り、国道 18 号線に戻った。御代田駅から国道 18 号線までは、県道 135 号線(御代田停車場線)があり、2022.7.12、佐久インターから国道 18 号線に出てから、駅入口交差点から県道 135 号線を通り、御代田駅まで走り、軽井沢町の県道をいくつか走った(県道 135 号線走破)。



2025.11.18、国道 18 号線を進み「丸山珈琲小諸店」で休憩し、コーヒーを飲んで(写真、容器はフレンチプレス)、ケーキとキッシュも食べてから、浅間サンラインに出てから小諸インターから帰宅の途に着いた。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.11.25

奉納温泉(小谷村)は、昔の記憶と違っていた

澤田 繁 著

(長野県道 330 号走破)

2022.5.10、県道 322 号線(白馬岳線・第 17 集 NO.117)を走り、猿倉山荘まで行き塩の道を通り国道 148 号線に出て、下里瀬交差点から県道 330 号線(奉納中土停車場線)で中土駅に向かった。この日は中土駅から糸魚川方面に向かい、糸魚川インターから能生インターに行き、魚を買って名立谷浜インターから帰宅した。

2023.7.11、大町から国道 148 号線を北上し、^{ふのう}奉納温泉に行きました。県道 330 号線は、国道 148 号線の下里瀬交差点から中土駅までと、この交差点から奉納温泉までの路線であり、下里瀬交差点を右折して県道 330 号線に入り、土谷川の谷間に沿って、山腹の道を走って行きました。奉納温泉までは、ところどころ家や耕作地がある山間の道であり、標高差 300m 程を登った。温泉の先を少し行くと更に道は狭くなり通行止



めになっていた(県道 330 号線走破)。奉納温泉の開湯は明治時代。一時期捨て置かれたが、1974 年(昭和 49 年)7 月に部落組合の直営で開業し、同年 9 月、現在地へ 4 キロほど引き湯。1980 年(昭和 55 年)には宿泊施設を増築した。1995 年(平成 7 年)の水害により一時休業。現在は復活している。昔温泉を入りに来た時(多分ここ)結構大きな建物であったような気がする。多分水害で昔の建物から新しい建物(写真)に変わったようだ。

バス停上手村付近まで戻って来て、千国古道が残っている山道を走り、大峯峠を越え、県道 114 号線(第 1 集 NO.7)に出て、中谷川に沿って下り、小谷温泉口交差点で国道 148 号線に出て、この日も糸魚川インターから北陸道に乗り、能生インターで降り、道の駅「マリンドリーム能生」で魚を買ひ、名立谷浜インターから帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.12.2
イオンモール須坂に初めて行きました
(県道 347 号走破)

澤田 繁 著

2025.12.2 松本市街に用事があり、その後国道 143 号線(松本～青木峠～上田)を、旧四賀村(錦部・中川・五常・会田)の中川まで走り、県道 303 号線(第 6 集 NO.39)に入り、風越峠を越え、筑北スマートインターから長野道に乗り、須坂長野東インターで降りた。このまま直進すれば、すぐイオンモールにいけるが、寄り道(旧綿内駅)をしたいため右折した。旧河東線(2012 年廃線)を高架で越えたため、右折が間違いである事に気づき、市道を使い、国道 403 号線に戻った。国道 403 号線を南下し、綿内駅入口交差点を左折して 100m 程で駅跡についた。駅舎はなく構内の跡地は整地されていたがエリアは保存されていた(写真下)。

旧駅から県道 347 号線(村山綿内停車場線)は始まっており、あらためて走って見た。千曲川の堤防の近くを走る道であり、堤防を越えて、



河川敷内の耕作地に行く道もあり、そちらにいかないように進んだ。県道 58 号線(第 1 集 NO.6)の下をくぐり、すぐに、宿場町のような所を通った。車を止めて写真を撮った。後で調

べて見た所、谷街道(松代道)は 1 本ではなく走っており、谷街道の宿場である「福島宿」(写真右)であった。宿の北側には枡形が残っていて、





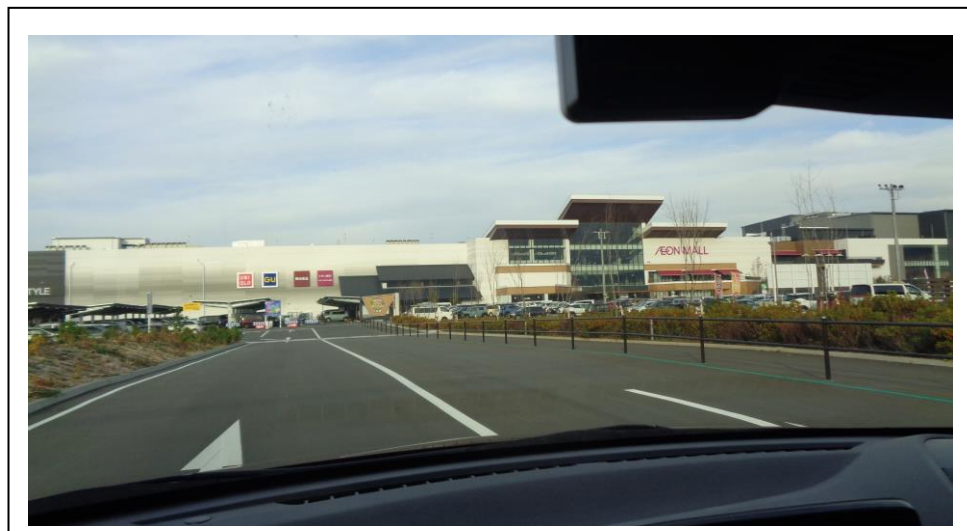
県道も T 字路となっていた。柵形を左に曲がると、本陣竹内家（前ページ左）があり、外から写真を撮った。

堤防の上に出ると景色が良く、車を止められる所があったので車を止めて景色を眺めた。横手山から菅平の根子岳

が良く見えた。これから行く「イオンモール須坂」方面も見え、建物集団が増えたようが見えた。土手道を村山町交差点まで走り国道 406 号線に出た（県道 347 号線走破）。

交差点を左折し、国道 406 号線を長野方面に進み、村山橋を渡り、国道 18 号線と交差し、左折し国道 18 号長野東バイパスを南下し、エムウェーブ交差点を左折し、県道 58 号線に入り、八島橋を渡り、イオンモール駐車場に入った。実は、入り口を見過ごし、イオンモールを 1 周して入りました。

イオンモール須坂は、2025 年 10 月 3 日にオープンしました。専門店が約 170 店、総賃貸面積約 63,000 m²、駐車台数 約 3,700 台県内最大級です。駐車場は、建物南側（正面？）と北側にあり、4 階屋上（フロアは 1 階・2 階・3 階）にもあった。屋根がついた駐車場もあり、屋外駐車場には珍しかった。中央南口より入り、いきなり「47」で私の帽子を買い、次に休



憩できそうなところを探して 3 階にいき、「バンビクレープ」でクレープではなくパフェを食べ休憩しました。その後、2 階にある人気の **Coco-Fiona/Trineeds Donut** ココフィオーナ／トリニーズドーナツは、完売の表示があり、1 階まで降り、案内を見て行く先を決め、「銀座惣菜店」で焼鳥・「口福堂」でだんごとわらび餅を買い、2 階フロ

アに上がり、「ダブルフォーカス」と「ユニクロ」で買い物をして帰宅しました。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.12.7

東海環状線 2025 年に開通した所を走り・桑名の蛤を食べる

澤田 繁 著

2025.12.6、家を 9 時 10 分に出発し、長野道を岡谷方面に向かい、岡谷 JCT から中央道に入り、土岐 JCT から東海環状自動車道に入った。

岐阜方面に行き、五斗蒔スマートインターまでの 2km 程は、4 車線道路となっている。土岐 JCT から豊田東 JCT までの 4 車線化は既に完成している。五斗蒔スマートインターから可児御嵩インターまで、4 車線工事がだいぶ進んでいた。可児御嵩インターからは、中山道を通りながら太田の渡しがある太田宿(写真下)まで 2023.9.5 に行きま



交わった。ここから郡上八幡と飛騨清見 JCT を経て高山インターでおり、安房峠を越え自宅までよく行ききしている、所要時間は約 3 時間です。(今回のルートでは 2 時間 50 分かかる) 2020.7.21、東海北陸道的美濃インターまで行き、「うだつの上がる町並み」に行き、うだつの上がる町並み(写



した。次の美濃加茂インターに併設されたハイウェイオアシスで休憩した。このすぐ前には、「ぎふ清流里山公園」があり、入ってすぐ横の切株の化石(写真下)の前で写真を撮った。「日本昭和村」の時代(2003 年～2018 年)には、何度か孫を連れて訪れた。

とみか
富加インターを過ぎ、美濃関 JCT で東海北陸道と



真下) と美濃和紙などを見て来た。

関市は、刃物で有名なところであり、関広見インターから国道 418 号線を東に 10 分進むと「岐阜県刃物会館」がある、この周辺にも刃物に関する所があった。関広見インターから山県インターまで進んだ。この区

間 2020 年 3 月に開通しており、2021.6.22 に、このインター降り、長野県が起点の国道 254 号線（飯田市上村～岐阜市）を通り「岐阜城」に行った。金華山ロープウェイに乗り、降りてから尾根を結構歩いて到着した。また、違う日に、インターから岐阜城と反対側（北側）に 30 分程行くと「モネの池」があり、狭いエリアだが散策した。桜の季節だったので、帰りに途中から寺尾千本桜街道を通り美濃インターに乗り乗るコースもある。



今日の第一の目的は、今年度（2025 年）に開通した山県インターから大野神戸インターまでを初めて走る事でした。山県インターから岐阜インターはほとんどトンネルでした。岐阜インターは岐阜市の北の端（岐阜大学近く）にあり、遠くに金華山が見えた。岐阜市から本巣市に入り、市の南側にインターがあった。大野町の南端と神戸町に大野神戸インターがあり、今日の目的の一つを達成した。



大野神戸インターは、2012 年に養老 JCT から大野神戸インターまで開通した後の早い時期に、養老 JCT から東海環状線に入り、終点の大野神戸インターまで行き、大垣に行きました。大垣城は、昭和 20 年(1945 年)、戦災で惜しくも焼失しなければ歴史的価値の非常に高い観光名所になっていたと言われる大垣城。かつての大垣城は、水堀を幾重にもめぐらせた堅城で、敷地にして現在の 3 倍以上、櫓の数は 10 を数える大変規模の大きな要塞だったと言われています。お城の周りを車で散策し、東に進み東海北陸道にぶつかり帰宅した事を思い出した。

養老 JCT から先の東海環状線は 2017 年に養老インターまで開通しており、初めて JCT を直進して 5km 程走り、養老インターで降りた。養老インターからいなべインターまでの 18km が未開通区間であり、ここから先も初めて走る。インターを降り、工事区間に沿って進み降り、津屋川を渡ると、養老山地に向かう橋脚が何本も建設され



ているのが良く見えた。岐阜県道 56 号線に出て 1km 程先を右折し三重県道/岐阜県道 25 号線に入った。すぐに山道に入り、1 車線から 1.5 車線の狭い登りのカーブも多い山道を進んだ。峠付近（二之瀬越）に自転車が数台集まっていた。近くに「庭田山頂公園」があるようだ。二之瀬越は県境でもあり、下りは、三重県となり、

山道を下った。麓に降りると傾斜はなだらかになり、集落があり、いなべインターを探しながら 8km 程下った所にインターがあった。

未開通区間 2026 年度開通予定だったが、養老トンネル工事が予想以上の出水に襲われて今の所開通時期はわからない事ようだ。養老トンネルは全長 4.7km のトンネルで、1 年前の情報では、出水が激しく工事が難航しており、残り 2.4km にはなっているが、開通の見通しが立たないとの事。現在の情報は、破碎帯にぶつかっているらしく 1 時間に 400 トン（9 秒で 1 トン・我が家の風呂は横 60cm×縦 100cm×深さ 50 cm は 3.3 秒でいっぱいになる）で残り 1.5km との事。この場所は、養老の滝でも知られ地域に豊かな水をもたらす「養老山地」。そこを貫くトンネル工事です。

いなべインターから大安インターまでが 2025 年開通・大安インターから東員インターまでが 2019 年開通・東員インターから新四日市 JCT までが 2016 年開通しており、いなべインターから残りの東海環状線を走り、新四日市 JCT から新名神に、さらに進んで四日市 JCT から東名阪道に入り、一つ目の桑名インターで降り、国道 421 号線から桑名中央線を桑名駅方面に真っすぐ進んだ。桑名中央線と国道 1 号線との交点の横に宿泊予定のホテルがあった。予定より早く 2 時過ぎに到着したため、桑名観光と昼食をする事にした。最初に桑名駅に行き、そこから桑名城跡を目指して東方面に進み、城跡(写真右)近くの駐車場に車を止めた。



桑名名物の蛤をまず食べたいと思い、駐車場のおじさんに聞いたら「うどん屋さん」が街道の中にあると言っていたので、歩いてすぐの旧東海道の「桑名宿」にいきうどん屋さんに入りました。うどん屋さんは、風流うどんそば料理「歌行燈本店」で、蛤歌行燈御膳を食べました。となりの人は、焼きはまぐりを食べていました。食事の後、桑名宿を歩いて「七里の渡し跡」を見に行きました。説明文は「桑名宿と宮宿（現名古屋市熱田区）の間は江戸時代の東海道唯一の海路でその距離



が七里（約 28 キロ）あることから七里の渡しと呼ばれました。七里の渡しは、ちょうど伊勢国の東の入口にあたるため、伊勢国の「一の鳥居」が天明年間（1781～1789年）に建てられました。七里の渡の西側には舟番所、脇本陣、駿河屋、大塚本陣が、七里の渡の南側には船会所、人馬問屋や丹羽本陣があり、東海道を行き交う人々で賑わり、桑名宿の中心として栄えました。・・・」現在、昭和 34 年の台風で甚大な被害を受け、堤防が築かれてなごりはない。駐車場に戻り、車で桑名城周辺を走り、寺町通りを歩いて散策し、自分のおみやげに「はまぐりしぐれ」を買って観光を終え、ホテルにチェックインしました。夕食は、駅方面に行き、ネットで調べてあった「伊勢エビ」がたべられそうな所に行ったが、土曜日でしたので、予約一杯で 3 軒ともだめでした。予約なしでも入れる所を探して「ビストロデルタ」でワインと前菜・つまみ・蛤の酒蒸し・ラムチョップを食べた、少しワインを飲み過ぎた。帰る道にシャンペン専門の店（シャトルオンズモンサラ）があったので一杯飲んでホテルに帰って寝ました。

次の日、ホテルより国道 1 号線から国道 258 号線、国道 421 号線を通り桑名インターから高速に乗り、四日市 JCT より伊勢湾岸道の豊田方面に進み、長島スパーランドの横を通り、名古屋港をまたぎ、東海環状線の開始点である豊田東 JCT に着いた。自宅から浜名湖方面や渥美半島や知多半島に行く場合の起点にもなる場所で、自宅から約 3 時間で到達する。

桑名宿の観光が、前日で済んでしまったので、まだ行った事がない足助宿に行きました。足助宿へは、豊田松平 IC で降り、巴川に沿って上流に進んだ。南から信州への塩の道の一つが足助宿から陸路で始まるとあったので、大きな川を想像していたが、水量が少なく溪谷のようだった。足助宿には、紅葉の名所「香嵐渓」があり、ちらっと車から見ました。その後宿場町内を走り、鞍ヶ池スマート IC より、東海環状線に戻り、豊田勘八、豊田藤岡 IC（2024.7 ジブリパークに）、せと赤津 IC（瀬戸物）、せと品野 IC を過ぎ、土岐南多治見 IC で降り、土岐アウトレットに寄って、孫の買い物をし、きしめんを食べ休憩した後、国道 19 号線を使い塩尻まで行き帰宅した。土岐からの 19 号線は、中津川まで中央道と平行して走り、中津川からは、中央道とは分かれ、木曽路を北上している。土岐から塩尻までは 3 時間で来た。この 2 日間の走行距離は 630km であった。

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

